

「次代に夢をつなぐ、持続可能なまちづくり」を目指して 令和5年度 まちの当初予算は 121億1300万円になりました

今年度の一般会計当初予算は、前年度に比べて20億7500万円(20.7%)増の121億1300万円となりました。今月号では、小豆島町が掲げる4つの柱に沿って予算を紹介します。先月号の「令和5年度施政方針」と併せてご覧いただくと、より分かりやすくなります。



①具体的な施策で見る

1.産業の再興と雇用基盤の強化

小豆島の観光窓口一本化	2510万円
小豆島観光ビジョンの策定	935万円
エキスポ2025小豆島プロジェクト	778万円
小豆島ふるさと村整備基本計画の策定	2929万円
地域経済循環創造事業の創設	2002万円
主体的に頑張る事業者販路開拓支援事業	1200万円
オリーブ循環型農業の推進	824万円

2.公共交通の確保と港の再整備

坂手港に観光拠点施設を整備	15億8089万円
循環バス(内海山手線ルート)の実証運行	945万円
池田港に駐輪場等を整備	2500万円
草壁港浮棧橋の長寿命化工事に向けた設計	550万円
芦浦岸壁の地震津波等対策工事	2970万円

3.教育施設の再編による 教育・子育て環境の充実

小・中学校の給食費無償化	4039万円
子ども医療費の支給	1804万円
GIGAスクール構想の推進	1084万円
星城小学校のスクールバス更新	1650万円
子育て支援アプリの導入	27万円
出産・子育て応援給付金の支給	1690万円
重度障害児島外通院費の補助	65万円
小児インフルエンザ予防接種事業	308万円

4.集落活性と空き家活用

若者の住宅取得支援	2000万円
Uターン者の同居リフォーム支援	1000万円
移住ホームページ特設サイトの新設	440万円
空き家資源活用事業	1268万円
地域おこし協力隊「移住コンシェルジュ」と「空き家コーディネーター」の配置	960万円
老朽危険空き家等の除却支援	5200万円

5.その他の施策

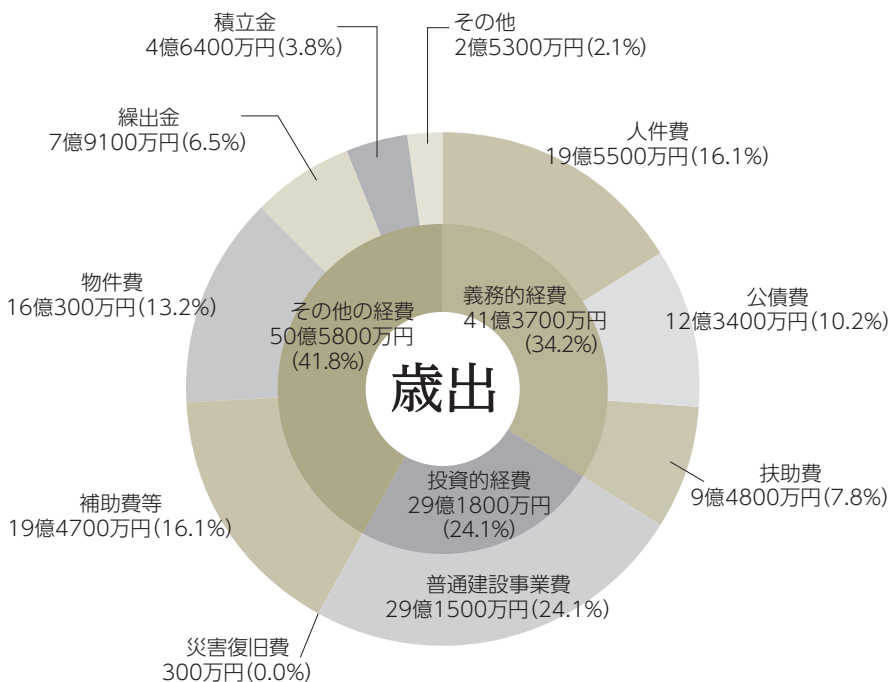
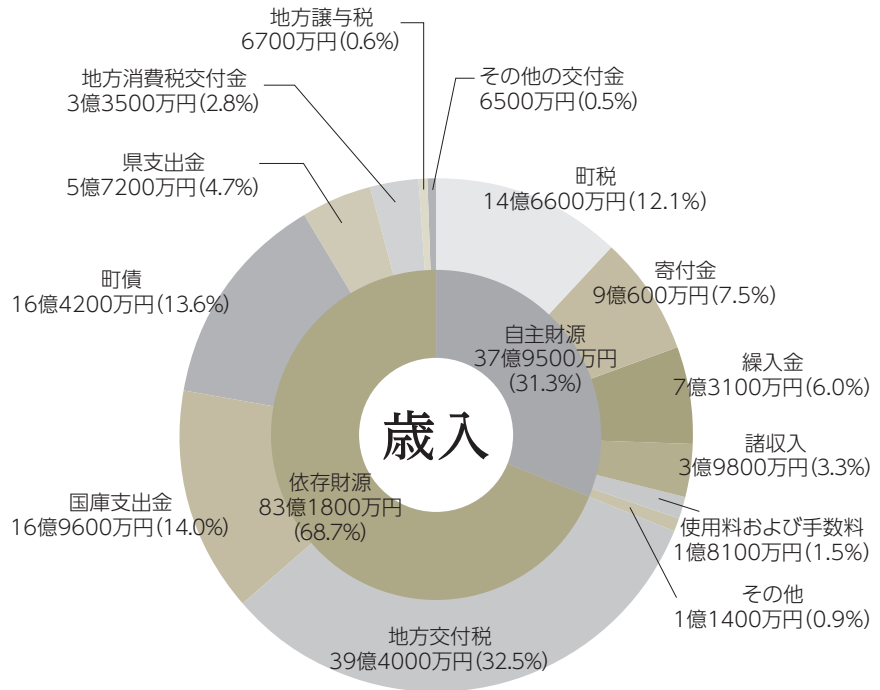
地球温暖化対策実行計画の改定	374万円	小豆島中央病院の運営支援	2億7942万円
高峰秀子生誕100年記念事業	1億1263万円	防災行政無線の更新	2923万円

②円グラフで見る ～「歳入」と「歳出」～

－歳入を見てみましょう－

自主財源の中では、「町税」に次いで「寄付金」が大きな割合を占めています。この「寄付金」9億600万円のうち9億円が、町外のみなさんからの「ふるさと納税による寄付金」を見込んでいます。

なお、近年では、寄付額5000円～2万円の地場産品や寄付額約15万円の高級シャワーヘッドが返礼品として人気です。



－歳出を見てみましょう－

右のページの中で、最も大きい事業費となっている「坂手港に観光拠点施設を整備」(15億8089万円)は、歳出グラフの「普通建設事業費」に含まれています。

この整備事業では、「大阪・関西万博」が開催される京阪神と航路でつながる坂手港に「観光振興ターミナル」を建設するだけでなく、駐車場などの周辺整備も行います。

※100万円未満は四捨五入しているため、合計が合わない部分があります。

③私たち1人あたりに使われる金額で見る



私たち一人あたりに使われる金額は**92万4304円**で、そのうち町が賄える金額は**28万9584円**です。

※まちの人口1万3105人(4月1日現在)と自主財源の数値から算出しています。